

第3回 操縦士・航空整備士の女性活躍推進 WG 議事概要

日時：令和7年1月21日（火）15:00～17:00

場所：中央合同庁舎2号館低層棟共用会議室5

出席者：

（委員（行政以外））

松尾委員、白河委員、李家委員、藤井委員、多田委員、松田委員、和田委員、森本委員、
浦松委員、大塚委員

（行政）

航空局 北澤安全部長、梅澤安全政策課長、木内参事官（航空安全推進）、
藤林乗員政策室長、藏安全政策企画官

事務局からの資料説明後、意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

○航空大学校に関する制度の見直しについて、下記の意見があった。

- － できるだけ早く効果を発揮するためにも、各見直しについて早期に実現するようにご検討いただきたい。
- － 多様ななり手の確保の観点からは、新たな選抜方法による枠の一部は男性に対しても開放するなど、理工系大学での取組等を参考に精査することが必要ではないか。
- － 新たな選抜方法の検討に際しては、最終的に操縦士の技能証明を取得できる能力は担保しつつ、航空大学校として求める人物像を踏まえた、人物重視の選抜方法とすることが必要ではないか。
- － 女性が過ごしやすい環境整備として、女性教官や学生の相談窓口への女性職員の登用等の取組みも有効ではないか。

○なり手の拡大に係る広報について、下記の意見があった。

- － まずは飛行機に乗ってもらうような実体験の場を作ることが重要ではないか。
- － 現場の職員の様子を動画等により発信し、仕事に対して親しみやすさを感じてもらう等の取組みが有効ではないか。
- － 整備士については、仕事へのイメージと実態の乖離により退職する層が一定数いる。実際の仕事を知ってもらい、狭い場所での作業等、女性だからこそできる整備についても紹介するのが有効ではないか。

○航空業界は客室乗務員によって、女性活躍が進んでいるイメージをもたれることが多いが、職種ごとにみると女性活躍が十分に進んでいないという点について、各社経営層にも認識いただくべき。

○企業間の垣根を越えた事例共有や、女性同士のコミュニティ形成に加え、制度の更なる拡充の検討や、女性間のみならず同世代の男性とも交流しやすいような環境づくりを含めた風土づくりが必要ではないか。

- 学科試験合格の有効期限については、諸外国の制度や試験自体の内容についても検討したうえで有効期限を見直すのが良いのではないかな。
- 女性割合について具体的な目標値を設けることは良いが、その達成に資する施策との関係を明確にしてはどうか。
- 操縦士・整備士の女性活躍推進は、航空業界全体における男女賃金格差の是正にも有効であるため是非進めていただきたい。

以上